# 日蓮大聖人御書全集

## 土木殿御返事（ときどのごへんじ）

（依智滞在の事（えちたいざいのこと））

新版1276～1277

# 土木殿御返事（依智滞在の事）

文永8年（'71）9月15日　50歳　富木常忍

御返事　日蓮

この十二日酉時、御勘気。武蔵守殿御あずかりにて、十三日丑時にかまくらをいでて佐土国へながされ候が、とうじはほんまのえちと申すところに、えちの六郎左衛門尉殿の代官・右馬太郎と申す者あずかりて候が、いま四・五日はあるべげに候。

御歎きはさることに候えども、これには一定と本より期ごして候えばなげかず候。いままで頸の切られぬこそ本意なく候え。法華経の御ゆえに過去に頸をうしないたらば、かかる少身のみにて候べきか。

また「しばしば擯出せられん」ととかれて、度々失にあたりて重罪をけしてこそ仏にもなり候わんずれば、我と苦行をいたすことは心ゆくなり。

九月十五日

土木殿御返事

日蓮　花押

上(かみ)のせめさせ給(たも)うにこそ、法華経(ほけきょう)を信(しん)じたる色(いろ)もあらわれ候(そうら)え。月(つき)は欠(か)けてみち満(み)ち、しおはひてみつ潮(しお)干(ひ)満(み)つこと疑(うたが)いなし。これも罰(ばち)あり。必(かなら)ず徳(とく)あるべし。なにしにかなげかん。何(なに)歎(なげ)かん。